

添田町立小学校統合及び 中学校校舎更新基本方針

～これまでの経緯から基本方針に至るまで～

令和元年12月

添田町教育委員会

1 これまでの経緯と再検討に関する考え方

(1) これまでの経緯（平成 29 年度から）

平成 29 年 9 月に、

- ・ 小学校 5 校を 1 校に統合し、新たな学校を建設する
- ・ 中学校も同一敷地内に建設する
- ・ サンスポーツランドに建設する
- ・ 平成 34 年 4 月 1 日に開校する

を盛り込んだ「添田町立小学校統合基本計画（案）」を作成し、11 月から 12 月にかけて、町長出席のもと各小学校区で説明会を行い、保護者・地域の方々に対し小学校統合についての理解をお願いしましたが、統合による地域コミュニティに対する不安や子どもたちの学力・通学の問題など様々な意見が出され、統合に反対の意見も多かったため、もっといろいろな意見を聞きながらこの問題を進める必要があることがわかりました。

そこで町は、統合の時期については白紙とした上で、統合の是非を早急に語るのではなく、統合した場合のメリット・デメリット、統合せず学校を存続させた場合のメリット・デメリット、統合に関わらず地域をどう活性化していくかなど、地域の皆さんとともに語り合う場として、平成 30 年度に「添田町立小学校の明日を考える会」（以下「明日を考える会」という）を開催しました。

「明日を考える会」は、ファシリテーター（対話促進役）が進行し、「未来のために子どもたちにつけてほしい力は」「それを実現するために学校にどんな役割を期待するか」などのテーマから始まり、「10 年後の未来を考える」「これからの教育について」と続き、最後の明日を考える会で、統合に関する 4 つの案、

- ① 4 校を統合し、1 校を小規模校として設置する。
- ② 5 校を統合し、分校を設置する。
- ③ 5 校を 1 校に統合する。
- ④ 5 校を維持し、改革する。

を提示し、それぞれのメリット・デメリットについて話し合いました。こうして、明日を考える会は、合計で延べ13回実施し、多くの意見を出していただきました。

(2) 明日を考える会での対話を踏まえて

「明日を考える会」では、教育、学校施設の維持管理、まちづくり等々に関する様々な考えが出されました。学校の地域コミュニティとしての役割や、地域の方々と一体となって行っている教育に子どもたちものびのびと育っていることなどの話がありました。

教育委員会は「明日を考える会」で出された多くの意見を踏まえ、5校を1校に統合という方法だけではなく他の方法も含め、何が最善か、改めて検討しました。

(3) 再度検討する上での基本的な考え方

・統合するかしないかに関しましては、今の各小学校は、学校と保護者・地域の方が一体となって子供たちを育てようとする体制が出来ていることや「明日を考える会」で出された様々な意見を真摯に受け止めたうえで、教育的観点、校舎の維持管理の観点、財政的観点、まちづくりの観点等を総合的に考え検討することとしました。

2 添田町立小学校統合及び 中学校校舎更新基本方針

(1) 基本方針

①小学校について

- ・ 5校を1校に統合し、新しい学校を設置します。
- ・ 建替えと改修の両方を検討します。
- ・ 場所は、原則、町有地とします。

②中学校校舎について

- ・ 建替え又は改修による更新を行います。
- ・ 場所は、原則、町有地とします。

③具体的な手法、場所等について

- ・ 具体的な手法、場所、経営方針等は、今後策定する「基本計画（仮称）」で決めていきます。

④基本計画（仮称）の策定方法について

- ・ 今後策定する「基本計画（仮称）」は、保護者・地域の代表者等の意見を聞いたうえで策定していきます。

(2) 小学校5校を1校に統合する理由

添田町がめざす小学校・中学校像の骨子

「生きる力（確かな学力、豊かな人間性、健康・体力）」

今後、社会の構造が劇的に変化していくであろうと予想されている中、「生きる力（確かな学力、豊かな人間性、健康・体力）」をバランスよく身につけた児童・生徒

を育て、未知の事柄に向かっていく力をつけることがより一層求められています。

保護者や地域の方をはじめ、大人たちはみんな、子どもたちには幸せになってほしいと願っています。子どもたちが大きくなり、社会に出て行く時がいずれ訪れますが、幸せになるために「生きる力」を身につけてほしい、「生きる力」を身につけるためには、小学校の段階から様々な考えに触れ、互いに学び合い、認め合い、協力し合い、切磋琢磨するなかで学ぶことができる場がより良い学習環境であり、必要な学習環境であると考えます。

添田町が目指す小学校・中学校像をふまえると、1クラスにおいては一定規模（30人前後）の児童数による学級編制が必要であり、1学年においても2クラス以上の、クラス替えが可能な児童数の確保が必要と考えます。

（3）統合によるメリット・デメリット

①一定の子どもたちがいると

- ・様々な子どもたちの考えや価値観に触れることで、新たな発見や人の思いを知り、自分自身の思考を深めていきます。
- ・一定の人数、一定の班の数でのグループ学習や班活動をすることで、仲間と協力することの大切さや、協調性、連帯感、励ましあいながらみんなで山を越えていくことの達成感や喜びを学んでいきます。
- ・一定の人数、一定の班の数でのグループ学習や班活動をすることで、問題解決的な学習や体験的な学習においては、班で持ち寄る量が多いので、学習内容が深まります。
- ・1クラスに一定規模の児童がいると、いわゆるライバルの選択肢が増え、お互いを目標に切磋琢磨し、向上心や競争意欲をもつ機会が増えます。
- ・1学年に一定規模の児童がいると、体育やクラブ活動でサッカーやドッジボールなどの一定人数が必要な球技において、正規の人数で学ぶことができます。
- ・クラス替えが可能となると、今までと違った新たな人間関係が生まれ、必然的に多くの友人と関わることになり、コミュニケーションの機会が増加します。
- ・クラス替えが可能であれば、友人関係等でのトラブルがあった場合にも、その配慮が可能となります。

- ・自分の考えなどを表現する力が求められている中で、班やグループから学級、学年、全校へと段階を踏みながら大人数の前でも堂々と発表する経験を積むことができます。

- ・受動的な学習態度となりやすい少人数学習から、自ら考え、課題解決して行く自主的・自立的な学習へと変えていくことができます。

- ・添田町に根付いている伝統、文化、歴史などについては、各地域にとどまることなく、全町的な学習が可能となります。

- ・町任用講師、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、支援員、ALT（外国語指導助手）など、人的資源を集中して配置することができ、より細やかな指導ができるようになります。

- ・5校が1校になることで、電子黒板、実物投影機などのICT機器を1校に集中的に投資し充実させることが可能となり、これからの時代に見合った授業が可能となります。

- ・ICT機器を充実することで、教員にとっては現状よりゆとりを持つことができ、その分、児童に関わる時間が増えることが考えられます。

- ・音楽発表会などでは、全児童による合唱や楽器の演奏を行うことにより、今までにないスケールでの演奏やハーモニーを奏でることが可能となります。

②統合した場合の不安や課題（小規模校と比べて）

- ・授業での発表機会や運動会の出場機会などが少なくなるなど、子どもたち一人一人の活躍する機会が少なくなることが懸念されます。

- ・先生が目が行き届きにくくなり、きめ細かな教育や生活指導が行いにくくなります。

- ・通学時間が長くなり、特に低学年児童の体力面、精神面に不安があります。

- ・全学年顔なじみの小規模校と比べ、学年を超えた関係が希薄になり、他学年との人間関係を形成しづらくなります。

- ・少人数であればなじめるが、一定集団になればなじむことが難しい子どももいます。
- ・学校全体がまとまりづらくなります。
- ・小規模の学校に通わせたくても、それができなくなります。
- ・保護者同士の繋がりが希薄になり、PTA活動など、地域に偏りができる恐れがあります。
- ・地域とのつながりが希薄になり、地域の方とのコミュニケーションや、農業体験などの地域の方から学ぶ機会が少なくなり、地域を愛さない子どもが増える恐れがあります。また、学校行事に地域の方が足を運んでいただけるか心配があります。
- ・地元から小学校がなくなることで、地域の衰退や少子化に拍車をかける恐れがあります。
- ・廃校した学校の、今後の活用に要する費用がかかります。

（４）統合しない場合や分校を設置する場合などについての検討

（５校を維持し改革する場合）

- ・異学年交流により他学年との深いかわりができ、大人になっても地域の子どもの面倒をみる心が育ちます。
- ・授業などでは、発言や行動する機会が多く、一人一人の活躍の場が多くなります。
- ・教員は、児童一人一人に目が行き届きやすくきめ細かな教育や生活指導ができます。
- ・小学校が地域コミュニティの核となり、地域活性化につながります。
- ・一方、10年後20年後の予想児童数からも統合が避けられないと考えると、現在の議論の先送りとなり、また、今後5校とも建替えや大規模改修などが必要となり、後世への多大な財政負担になる恐れが考えられます。

（４校を統合し１校を残す場合）

- ・一定規模の児童数を確保でき、集団での多様な考え、学び合い、切磋琢磨する機会が増えます。
- ・1校を残すことで選択肢が増え、個に応じた教育がある程度可能になります。
- ・1校を残すことで、その地域は地域コミュニティの拠点として活用できます。

・一方、残す1校を決める際、どこを残すかなど様々な問題が生じることが予想される。残った1校に児童が集中したり変動したりすることが考えられ、その場合、学級編制や教職員の配置の決定が不安定になり、学校として一貫した教育が行いづらくなることが考えられます。

(5校を統合し、分校として残す場合)

- ・低学年の子どもにとって、家が近く心理的に安心でき、負担も少なく、分校では少人数であるので、きめ細かな指導が可能となります。
- ・どこの小学校でも分校とすることは可能であるため、引き続き地域コミュニティの拠点として活用できます。
- ・一方、低学年だけでの集団登校や兄弟児がいる場合本校と分校に分かれるなどの通学の課題や、本校で行事がある場合の移動手段と移動時間に課題があります。また、学年間の繋がりに欠ける恐れがあります。

(5) 理由のまとめ

「明日を考える会」で提案した4つの案については、それぞれに多くのメリット・デメリットが出されました。

現状、特に小規模校においては現在の小学校を存続させたいと考える多くの保護者や地域の方がいること、地域が一体となって積極的に子どもを育てようとしていること、小規模校だからできるきめ細かな学習指導や異学年交流・地域交流など、小規模校のメリットが多く存在しています。

一方、一定規模の児童数を有する学校においては、クラス替えや一定人数でのグループ学習などの集団形成が図られ、それにより様々な考えを引き出し、学びを深めることがより可能となっています。

「明日を考える会」で提示した4つの案のメリット・デメリットはありますが、これからは、一定規模の集団の中で、互いに学び、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨しながら「生きる力」を育成していくことが一層求められていることや、限りある予算を一極集中的に投入し教育環境を整備する必要があること、10年後20年後の児童数から統合は避けられないことなどを総合的に考え、統合によるデメリットの対策を十分検討していくことを前提に、5校を1校に統合することが最

善であるという結論に至りました。

(6) 中学校校舎更新基本方針

中学校校舎については、老朽化が進み学校生活に支障をきたしてきているので、できる限り早く建替え又は改修を行います。

(7) 小・中学校建替え又は改修に係る方針

① 場所について

場所については、可能かどうか不確定な個人用地の買収は行わず、原則、速やかに造成等の着手が出来る町有地とし、今後策定する「基本計画（仮称）」の中で検討し明確にしたいと考えます。

なお、平成29年度にお示しした「添田町立小学校統合基本計画（案）」では、早急に建設できること等を理由に、建設場所を「サンスポーツランド」としていました。しかし、運動施設をどうするのか、利用者に対する配慮などの社会教育上の重要な課題が残ることになります。運動施設は今後も必要であると考えており、建替えに伴う代替地の選定については、今と同規模の敷地の選定は困難であり、整備費も多額になることが予想されるため、サンスポーツランドでの建替えはしない方向で検討を進めていきたいと考えます。

小中学校とも校舎については現在の躯体の強度を調査したうえで、また、場所に関しても面積、地耐力、利便性などを調査検討し、対応していきます。

② 財政面について

財政面に関しては、現下の厳しい財政事情を踏まえると、後世に多大な負担を負わせるわけにはいきません。原則として、国の補助金や交付税制度を活用できる手法を選択することとし、過度の財政負担にならないよう検討していきます。

最善の教育環境の在り方を踏まえつつ、限られた財源でどういうことができるのか検討します。

③ 施設環境について

学校施設環境に関しては、学校は子どもたちが一日の活動の大半を過ごす場所です。そこは、学びの場であり生活の場であり、かつ安全な場所であってはなりません。

学校が安全なのはもちろん、全ての児童・生徒が学習や生活に不便を感じることはない環境整備を進めていきます。

④ 教育環境について

教育環境に関しては、パソコンの配置、各教室に電子黒板の配置などの ICT 環境の整備をはじめとするハード面の充実や、少人数授業等が可能となるよう町任用講師、個別の支援が必要な子どもたちが安心して学校生活を送れるよう支援員の配置等のソフト面の充実を検討し、可能な限り今までにない魅力ある教育環境等の整備を図っていきたいと考えています。

⑤ 統合によるデメリットは基本計画（仮称）の中で対策をしっかりと考える

統合による懸念事項と考えられる通学手段、学年を超えた交流、少人数授業、地域コミュニティ、少子化等々については、今後策定を予定している基本計画（仮称）の中で、対応をしっかりと検討していきます。

（８）今後策定する「基本計画（仮称）」について

① 保護者、地域、学校、行政の協働による「基本計画（仮称）」を策定する

「明日を考える会」では、新たな気づきや発見が多々ありました。

行政からの一方通行的な施策ではなく、今後も対話を続けたいと考えており、基本計画（仮称）の策定でも、保護者や地域の方の考えや意見をお聞きするため、行政と保護者・地域の方の代表者、学校で構成する「基本計画策定協議会」を設置し、財政事情を踏まえたうえで、検討していきたいと考えます。

今後、統合に向けて、限りある財源の中で、どうすればいい学校になるのか、また、今の学校がなくなることでの地域の衰退や少人数学習ができなくなるなどの、統合によるデメリットをどうすれば解消できるのかなど、知恵と力をお借りしたいと考えます。

また、跡地活用に関しても、皆さんと共にしっかりと検討していきます。

② 基本計画（仮称）で定める主な内容

- ・小中学生における町が目指す教育目標の設定

(骨子である「生きる力」からの派生的目標)

- 更新方法（建替えか改修か）、場所の決定
- 小中連携に関する方針
- 保護者、地域が学校運営の協議に参加し、保護者、地域、学校が一体となって運営を行う「コミュニティースクール」の実施検討
- 施設の方針（全体の配置、教室、運動場、体育館、駐車場など必要な種類とその広さ、形状など）
- 設備の整備方針（エアコン、ICT 関連など）
- 跡地の活用
- 地域とのつながり
- スクールバスの運営方針
- 学級編制方針（学級人数）
- 今後のスケジュール
- 概算費用の算定
- 学校名、校歌、学校生活における事項を検討する「準備委員会」の設置に関する事項

(9) 今後のスケジュールについて

今後のスケジュールについては、小・中学校の更新手法、場所等が未定であり、更新規模も不明であるため、現時点では明確にお示しすることはできません。

今後の流れとしては、小・中学校とも令和2年4月から「基本計画（仮称）」の策定に着手し、計画策定後は、基本設計、実施設計を行い、設計終了後に造成工事、建築工事に着手していく予定です。